一服のお茶から、胸いっぱいのステージまで。

観客を魅了してやまないステージ、見る人を引き込む感性豊かな作品の数々。町のアーティストの表現が、今年ついに一つになった文化の祭典。福智町文化祭

ふれあいの催し

文化祭の会場やその周辺には、たくさんの人と出会い、ふれあえる空間がつくられていました。「焼けてるよー」「安いよー」とかけ声が響く出店、お茶席での心からのおもてなし、好奇心いっぱいの紙芝居など、数々のイベントが、文化祭に花を添えました。

思いめぐる展示

さりげなく心に安らぎを与える作品から、アッと言わせる存在感で驚かせる作品まで、多彩な作品が勢ぞろい。見る人は、手に取ったり、作者に思いをはせたり、作品に友人の意外な一面を発見したりと、思い思いの視点と観賞方法で作品を楽しんでいました。

あつまる。一つになる。同じ舞台で。

心躍るステージ

合唱、合奏、舞踊、ダンスなど、夢のコラボレーションが福智の舞台で実現しました。「和」も「洋」も、大人も子どもも、舞台に上がればみんなが主役。思いを込めた歌と音、磨き抜かれた身のこなし、日ごろの成果が一堂に会した、感動の舞台発表でした。

ステージに立つ人の表情も、展示作品の出来ばえも、どれも例年以上の意気込みを感じました…。それもそのはず、昨年までは旧3町それぞれの取り組みを継続した個別の文化祭でしたが、今年5月の文化連盟発足により、全町規模で一つになる文化祭が実現したのです。

まず、スタートを飾ったのは、10月14日に地域交流センターで開かれた「ふれあいコンサート」でした。文化連盟の7団体と金田・方城中の吹奏楽部が合唱や演奏を披露。歌うことや奏でることへの喜びに満ちたハーモニーは、会場はもちろん、観客の心の奥深くまで響き渡りました。

そして「文化の日」を迎えた11月3日から「芸能発表会」と「作品展示」が2日間の日程でスタートしました。

芸能発表会では120人の出演者が地域交流センターのステージに集い、あでやかな日本舞踊や躍動感あふれるダンスなどを披露。年に一度の晴れ舞台に、惜しみない拍手が送られました。

公民館金田分館で行われた作品展示会では、絵画や書、写真、生け花、手芸、そして福智町を代表する伝統的工芸品・上野焼などなど、バラエティー豊かな作品が千点以上並びました。訪れた人は、感性豊かな作品や心つかむ作品に思わず足を止め「へぇー」という感嘆の声とともに、まじまじと見入っていました。また、お茶席やバザー、子ども広場などの催し物が会場やその周辺で行われ、多くの人でにぎわいました。

旧町の枠をこえ、こうして画期的な一歩をふみ出した文化祭は、11月25日の「謡曲・仕舞大会」「囲碁大会」、2月24日の「歌謡・詩吟発表会」へと、まだまだ続いていきます。町の文化の担い手による「はじめの一歩」は、今後、その歩みを確実に積み重ねていけるような「確かな一歩」として、すべての参加者の胸に刻まれました。